

【天井インサート割付図を描くに当たっての基本知識】

天井インサートはコンパネによるRC在来工法と、鉄骨造等を使用されるデッキ工法に2分されます。  
また名前の通り天井の吊ボルトを施工するためにコンクリート内に打ち込まれますが、サッシのカーテンボックス等の天井以外にもあらかじめ打ち込んでおく事もあるので、事前検討が必要になります。  
また断熱材の有無やインサートを固定するための釘の後処理も考えておく必要があります。

建築工事の天井のみでなく、設備の配管やダクト、電気のケーブルラック等にも天井インサートをあらかじめ施工します。  
天井インサートはメーカーによりますが、色々な色が揃っているので、設備業者と打合せを行い業者毎の色分けを行うと後の仕上げ工事で分かりやすいです。

【実際の割付手順】

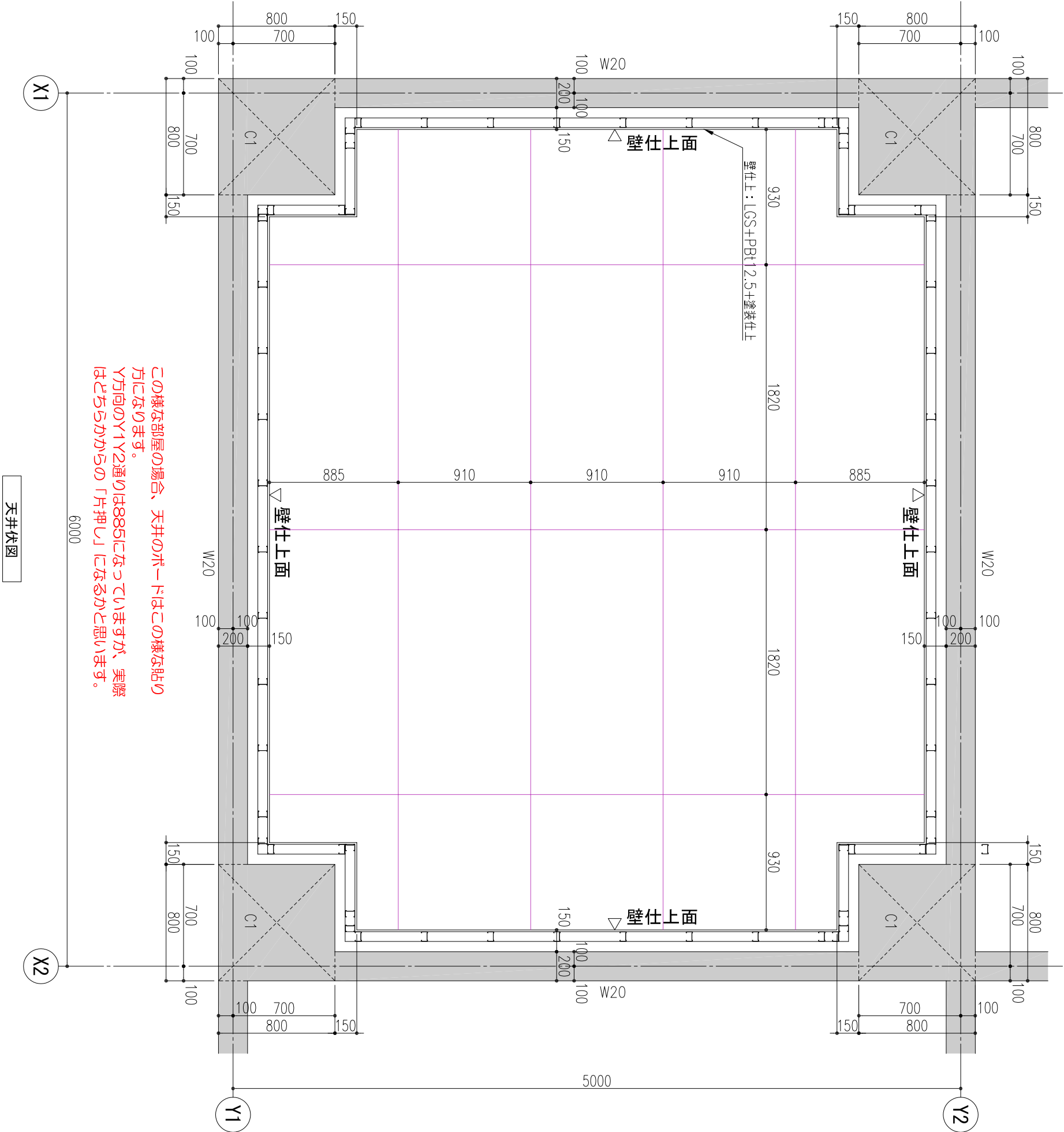
1.RC造の建物を例に考えてみましょう。

○天井仕上：PB t9.5+塗装仕上

○天井高さ：1FL+2500（階高：4000）

2.まず建築の壁・天井のみの条件で割付を行います。

3.実際にはダクト・天井カセットエアコン・電気のケーブルラック等がありますので、天井インサート割付図を設備・電気の業者に確認を行う必要があります。  
この作業を怠ると、建築のみで考えていたインサートの位置が、全てダクトに干渉して全て使用できないと言う事が起こりえますので注意が必要です。



1.天井インサートは野縁受け（親バー）の吊ボルトピッチを考えることになり、ますので、天井に貼るボードの長手方向に流します。

2.吊ボルトは一般的には900ミリ以下、梁等の端部は150ミリ以下とするのが基本です。

